
キョン子の憂鬱

キノピコ・キノピオ・ルナサ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

キヨン子の憂鬱

【Nコード】

N4511BA

【作者名】

キノピコ・キノピオ・ルナサ

【あらすじ】

夏休みを3日後にまで迫っているというのに、俺を女にしてハルヒお前は何がやりたいんだ？

キヨン子の憂鬱 その1（前書き）

この小説はド素人が人生ではじめて書いたものです 不満な点などがあると思いますがどうぞご覧下さい

キヨンの憂鬱 その1

登場人物

涼宮ハルヒ 神的能力を持つが自覚無し

キオン 子 キオンが女体化した姿

妹 キヨンの妹

谷口 ナンパが趣味のキオン（キヨンの子）の悪友

国木田 成績優秀の美男子

それは蝉がみんな鳴いている夏休み3日後にまで控えた朝のことだった。

「キオンちゃん 朝だよ おきてえ」

「ゴハッ！」

いつも通りに妹は必殺フライングボディプレス（ ）をやってきやがった もう少しは手加減しろ

というか今キオンちゃんって言ったよな。

我が妹よ俺をそんなにバカにしたいか。

「キオンちゃんてばあ」

「誰がキオンちゃんだ お兄様と呼びなさい」

「ええ」 キオンちゃんはお姉ちゃんでしょう 変なキオンちゃん」

お姉ちゃんのことについて言おうと思ったがシャミセンが妹に誘拐されてそのまま外に出て行ってしまった。

ムクリと起き上がり

「まったく最近の妹はココまでバカにするようになったか」

このとき少し声が変わりだと感じたが寝ぼけているせいだと思いそのまま洗面台へ向かった。

話は変わるが人によって、歯磨きを食べる前にする人と食べ終わつたあとに歯磨きをする人などというらしい。俺の家族は食べる前に

歯磨きをする派である、よって今洗面台に向かっているわけである。

洗面台についた俺は歯磨き粉をつけて鏡のほうを向いて磨き始めた時、異変に気づいた。

「ん．．．．．なんで鏡に女性が映ってるんだ？」

目をこすつてもう一回確かめる、そこには長髪の女性の顔があつた「えっと．．．．．これって間違いなく俺だよな」

頬を引っ張ったり髪を触つてみたりしてみたがどうやら本当に俺らしい

「そりゃあ、妹にお姉ちゃんって言われるわな」

声もどこかわいらしい声に変わっている

そこで誰がこんな状況を作ったのかわかった

「ハルヒの仕業か．．．．．」

あいつが望んだのだろう、ということはあることがお気に召すまでのままとすることだ。

「やれやれ」

厄介なことになったな．．．．．

その後歯磨きを済ませて朝食をとり始めた

いつもと同じ分量なのに半分食べてお腹が受け入れを拒否した

どうやら女性になったに合わせて胃が縮んだようである

「ごちそうさま」

といった後着替えをするために部屋へ戻った

髪は自然に「ポニーテール」で結ぶことができた。問題は制服である

「これどうやってきるんだ？」

女性用セーラー服の前にして考える

ココをこうして　こうやって．．．

ようやく着れた、10分もかった

この時間だとゆっくりしている時間はなさそうだ

そのままバッグを持ち

「いつてきまーす」といつも通りの時刻に家を出た

それにしても暑い、お天道様ももうチョイ手加減してくれませんか
ねえ

現在の気温は29度である

「暑い上にいつも以上に疲れる」

例の強制ウォーキングコースである

女性になったに合わせて、体力のほうも落ちたようだ

「でもスカートなだけましか」

スカートの中を風が通り涼しさを感じるが突風には気をつけたほうがよさそうだな、スカートがめくれて谷口にでも見られたらたまつたもんじゃない。

ふと谷口や国木田などのことが頭に浮かんだ

「あいつらまで女性になってるとかないよな」

俺は辺りを見回した。この時間なら近くにいるはずだ。見回しながら探していると……………

「よぉーキョン子、どうした辺りを見回して？」

「キョン子ちゃん、おはよう」

声をかけてきたのは谷口と国木田である、どうやらこいつらは何の変化もないらしい。

「ん？いやなんでもない」

「男を探していたのか？とうとうキョン子にもやってきたか……………」

なんでそうなる　だがそんなことを言う谷口をスルーして

「国木田今日は何日だ？」

家で確認し忘れてしまったのだ

「え…………7月……日だけど、どうかしたの？」

「いや…………用事を思い出してね」

「デートか？」

谷口が首を突っ込んでくる

「そんなわけない」

「でもお前、意外ともてるじゃんか？クラスの男は目をつけていると思うぜ」

「意外とは失礼だな」

「すまんすまん、でもお前って不思議だよな誰も告りに来ないじゃん 俺があっちの立場のときはA・（マイナー）つけてたぐらいだぜ」

「どうやら」

「今のところ隠れファンも結構いるみたいだぜ。でもお前俺がナンパしたとき断ったしまさか告られても断っているのか？」

「ということは女性の俺が谷口との接点を持ったのはナンパを断ったときということか」

「告られたことねえよ」

「そうかそうかそんなに隠したいんだなよーくわかったさ」
「なにがだ」

「話に戻るけどさあ お前をナンパした後、何人かに……………」

この後谷口のナンパ話を延々と聞かされて
ようやく校門に着いた 校門に着いたときには体が完全に疲れ切っていた

（：涼宮ハルヒシリーズより）

2話へ

キヨン子の憂鬱 その1（後書き）

こんなド素人が書いた小説読んでくれて本当に有難うございました
次回は現在ノートに鉛筆でカリカリと下書きを書いているところ
であります

なるべく早めに投稿したいと思しますのでしばらくお待ち下さい
誤字などがございましたらお知らせ願います
ご意見や感想などおまちしております

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4511ba/>

キョン子の憂鬱

2012年1月12日03時55分発行